

La Traviata

—椿姫—

株式会社 ATORU 設立 10 周年記念





HIKARU
EBIHARA

海老原 光

〔指揮〕

鹿児島生まれ。鹿児島ラ・サール中学校・高等学校、東京芸術大学を卒業、同大学院修了。その後、ハンガリー国立歌劇場にて研鑽を積む。指揮を小林研一郎、高階正光、コヴァーチ・ヤーノシュの各氏に師事。2007年ロブロ・フォン・マタチッチ国際指揮者コンクールで第3位、2009年ニコライ・マルコ国際指揮者コンクールで第6位入賞。2010年アントニオ・ペドロッチ国際指揮者コンクールでは審査員特別賞を受賞。2019年、九州シティフィルハーモニー室内合奏団首席指揮者に就任。これまでに、日本フィルハーモニー交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京都交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、読売日本交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、群馬交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、大阪交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、広島交響楽団、九州交響楽団、ほかを指揮し、客演を重ねる。2011年より毎年霧島国際音楽祭に登場している。また、2012年に続き、2015年に再びクロアチア放送交響楽団の定期公演（ザグレブ）に出演し、現地で好評を博した。公式ホームページ <http://www.hikaru-ebihara.jp/>



TETSU
TAOSHITA

田尾下 哲

〔監修〕

1972年兵庫生まれ、横浜育ち。東京大学工学部建築学科卒。同大学院学際情報学府修士課程修了。ドイツ人演出家ミヒャエル・ハンペとの出会いを機に本格的に演出を学び、2000年から演出家として活動を開始。03年より新国立劇場に所属し、オペラ・チーフ演出スタッフとして約70以上のプロダクションに参加。アンドレアス・ホモキ、ジョナサン・ミラー、グリーシャ・アサガロフなど世界の第一線で活躍する演出家と協働した。2009年、第20回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。同年6月、チューリヒ歌劇場『カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師』で共同演出家・振付家としてヨーロッパデビュー。近年はオペラの演出に留まらず、ミュージカルやストレイトプレイ、映像作品など多彩な作品に携わっている。2010年8月から11月まで、打ち合わせから3ヶ月の稽古期間、NYリンカーンセンターの新作ミュージカル「神経症ギリギリの女たち」（パートレット・シャー演出）に参加。本場NYでのプロダクションの現場を経験した。他に、野田秀樹の演出助手として歌舞伎座「野田版愛蛇姫」・NODA MAP公演「パイパー」、「ザ・キャラクター」、「南へ」、蜷川幸雄「欲望という名の電車」、松竹映画「CASSHERN」（紀里谷和明監督）など、ジャンルを問わず積極的に活動を展開している。

木村裕平 Yuhei Kimura [ピアノ]

ドイツ桐蔭学園高等部を経て、武蔵野音楽大学ピアノ科卒業。父親の海外赴任に伴い、ブラジル・サンパウロに生まれ、幼少期を過ごす。その後日本を経て、中・高をドイツ・デュッセルドルフにて過ごす。現在、自身の後援会主催ソロ・コンサートをはじめ、数多くの著名な声楽家のコンサートピアニストとして、活発な演奏活動を展開している。また、内外多くのプロダクションのコレペティとして活躍。加えてコンサートでのコード・アレンジ等、その演奏は日刊現代等の誌面において、天才ピアニストと評された。近年では合唱指揮者としての活躍も多く、イタリア・ヴェルディ劇場での公演や、コンクールでの最高位入賞など、現在7団体の音楽監督・指揮者として、合唱普及に努めている。来期からは自身の主宰による声楽クラス“The Class《Voices》”が開講するなど、活動の幅は留まる所を知らない。東京二期会ピアニスト／日本合唱指揮者協会会員 木村裕平友の会“with you”公式ホームページ www.yuheikimura.com

海野幹雄 Mikio Unno [チェロ]

バロック、古典、ロマン派から現代音楽までと非常に広いレパートリーを持ち、ソロ、アンサンブル、全国の各オーケストラへ首席奏者として客演、小学校等へのアウトリーチ活動、また、編曲や指揮も行うなど、幅広いジャンルで高い評価を得ているマルチなチェリスト。音楽一家に生まれ、14歳より母にチェロの手ほどきを受ける。桐朋女子高等学校音楽家を経て、桐朋学園ディプロマコース終了。毎年開催しているソロリサイタルでは意欲的な企画を次々と打ち出し、2015年には、神奈川フィルとドヴォルザークのチェロ協奏曲を共演。また2009年より毎年横浜市イギリス館で開催しているサロンコンサート「Salon de violoncello」は100回を越え、ますます好評を得ている。(財)地域創造主催事業「公共ホール音楽活性化事業」登録アーティスト。ピアニトリオ海（Meer）、室内オーケストラARCUS（アルクス）、作曲家・新垣隆とのデュオ「ORIGO」等多くのアンサンブル団体に所属。NPO法人「ハマのJACK」理事。弦楽器専門誌「サラサート」の2018年8月号では表紙&巻頭特集に起用され注目を集めた。オフィシャルホームページ <http://mikio-unno.com/>

三又治彦 Haruhiko Mimata [ヴァイオリン]

宮城県出身。桐朋学園音楽学部演奏学科卒業。2005年、ライブツィヒ室内管弦楽団と共演。2006年にNHK交響楽団に入団。現在ヴァイオリン次席奏者。2008年にはハマのJACK（現在は特定非営利活動法人）を仲間とともに立ち上げ、未来の音楽家支援を目的とした「金の卵プロジェクト」を実施。一流の音楽家達によるオーケストラのソリストを決める「金の卵ソリストオーディション」や年間15回に及ぶ「金の卵達によるサロンコンサート」の実施、名器の貸与等行っている。またクラシック音楽をより多くの人々が楽しめるよう家族で楽しめる音楽プロジェクトを精力的に企画し、親子で楽しめるオペラ「魔笛」、名作絵本に音楽を加えた朗読コンサート、地域に根差した「クリスマスキャロルコンサート」や動物の謝肉祭の現代版「野毛山動物の謝肉祭」等好評を博している。演奏活動だけではなくワークショップにも力を入れており、「ヴァイオリンを作ろう」を代表とするわくわく音楽工作室、プロの演奏家と共演できる「ハンドベルワークショップ」等これまでのべ1000人の子供たちと音楽を通じて交流している。NPO法人ハマのJACK理事長。 <http://hamajack.sun.bindcloud.jp/>

松井理史 Yoshifumi Matsui [コントラバス]

千葉県出身。9歳よりコントラバスを始める。桐朋学園大学を卒業。同研究科、桐朋オーケストラアカデミーを修了。秋吉台国際音楽祭・宮崎国際音楽祭等に出演。ATMアンサンブル、木村俊光氏等と共演。特定非営利活動法人ハマのJACKメンバー。これまでに永島義男、西田直文、白土文雄の各氏に師事。

合唱

〔ソプラノ〕

川田桜香

久野綾子

宮澤那名子（フローラ）

〔メゾソプラノ〕

島井香衣

坂野アンナ（アンニーナ）

山西さや香

〔テノール〕

小野裕正（ガストン）

鈴木利幸

坂詰克洋

〔バリトン〕

岡本 隆

岸本 大（ドビニー侯爵）

寺西一真（ドゥフォール男爵／医者）



谷口久美

〔ソプラノ〕 ヴィオレッタ

メッセージ

本日は、年の瀬に入りお忙しい時期にも拘りませず皆様にお越しいただきありがとうございました。昨年パリに3週間滞在致し、私の大好きなオペラ「椿姫」のヒロイン、ヴィオレッタのモデルになった一人のフランス人女性の足跡を追ってみました。19世紀前半のパリに存在した特殊な世界でクルティザンヌの頂点を極めた絶世の美女、マリー・デュプレシ。彼女の23年の人生を辿りながら、当時の時代背景を掘り下げて行くうちにオペラ「椿姫」の魅力を一人でも多くの方に伝えたいという、そんな気持ちで筆を取り始めました。中央公論新社より「椿姫に魅せられて」の上梓が決まりましたところ、友人達から背中を押され、この機会にオペラをほぼフルで通すという最後（今回こそ!）の挑戦を目指すことになってしまいました。膨大な楽譜の暗譜は並大抵ではなく、爆弾を抱えての舞台ですが最後までお楽しみいただければ幸甚でございます。今後は恒例の白金カンタービレのチャリティコンサートは継続させて頂きながら、オペラの振興のために微力ながら力を注いで参りたいと思います。本日共演いただきます日本を代表する音楽家や演出家の先生方、並びにいつも温かい応援を下さいますご来場の皆様方、そして準備にご尽力くださった友人達に心より感謝申し上げます。二期会理事



三宅理恵

〔ソプラノ〕 ヴィオレッタ（第二幕）

東京音楽大学卒業、同大学修士課程首席修了。ロームミュージックファンデーション特別奨学生としてニューヨークに留学。バード音楽院修士課程修了。オペラは、新日本フィルハーモニー交響楽団定期演奏会「レオノーレ」（日本初演・演奏会形式）マルツェリーネ役を始め、小澤征爾音楽塾オペラプロジェクトに複数回出演。宮本亜門演出『フィガロの結婚』で二期会オペラデビュー。その後日生劇場『フィデリオ』マルツェリーネ役、「ヘンゼルとグレーテル」グレーテル役、新国立劇場『パルジファル』花の乙女役等を務める。NHK音楽祭「ドン・ジョヴァンニ」ツェルリーナ役、藤倉大オペラ処女作品「ソラリス」（日本初演・演奏会形式）ハリー役を務め、絶賛を博す。その他、フォーレ「レクイエム」、モーツァルト「レクイエム」、ブラームス「ドイツレクイエム」、アンドリュウ・ロイドウェバー「レクイエム」等宗教曲のソリストとしても活躍。また「マエストロ・オザワ78歳バースデーコンサート」、ファビオ・ルイーダ指揮マラー「復活」、小澤征爾指揮水戸管弦楽団定期演奏会「第九」のソリストで出演するなど、確かな実力を持つ逸材として注目を集めている。村上龍氏著、「日本の伝統行事 Japanese Traditional Events（講談社）」に収録されている「日本の童謡と唱歌集／坂本龍一氏監修」の楽曲に参加し、村上龍氏より「国境を越えた」声として評される。二期会会員。



小貫岩夫

〔テノール〕 アルフレード

同志社大学及び大阪音楽大学卒業。文化庁オペラ研修所第11期修了。音大在学中の95年「魔笛」タミーノ役に抜擢され、テオ・アダムと共演デビュー。この成功により翌年、ケムニッツ市立歌劇場（ドイツ）に招聘出演し地元紙より好評を得る。98年より文化庁派遣でミラノへ留学。帰国後数々のコンクールで優勝・入選し、二期会、新国立劇場を中心に「コジ・ファン・トゥッテ」（宮本亜門演出、文化庁芸術祭大賞受賞）などで活躍。07/10年二期会「魔笛」タミーノ役（実相寺昭雄演出）、11年佐渡裕プロデュース「こうもり」アルフレード役などで喝采を浴びた。近年では2018年二期会公演「魔弾の射手」の主役マックスや、「アンドレア・シェニエ」、2019年「ドン・カルロ」のタイトルロールなど、常に新境地を開拓し続けている。2013年天皇后両陛下（当時）御親覧のチャリティボールで演奏しお言葉を賜る他、フィレンツェではイタリア元首相夫妻主催のコンサートに招かれた。二期会会員



与那城 敬

〔バリトン〕 ジェルモン

桐朋学園大学ピアノ専攻卒業。同大学研究科声楽専攻修了。新国立劇場オペラ研修所修了。文化庁研修員として渡伊。奏楽堂日本歌曲コンクール第1位。マリオ・デル・モナコ国際声楽コンクール第3位。06年「コジ・ファン・トゥッテ」グリエルモで東京二期会デビュー。08年東京二期会「エフゲニー・オネーギン」タイトルロール、10年新国立劇場「愛の妙薬」ベルコーレ、「鹿鳴館」影山伯爵などに出演。その後も東京二期会「フィガロの結婚」アルマヴィーヴァ伯爵、同「蝶々夫人」シャープレス、北とぴあ国際音楽祭「ドン・ジョヴァンニ」タイトルロール等に出演。本年2月には東京二期会「金閣寺」溝口役でも絶賛された。コンサートではNHK交響楽団、読売日本交響楽団、新日本フィル、東京交響楽団等にソリストとして出演。NHKニューイヤーコンサート、名曲アルバム、東急ジルベスターコンサート等メディアにも度々出演し注目を集めている。二期会会員